

# 経済・金融 フラッシュ

## 景気ウォッチャー調査 13年10月 ～現状判断DIは2ヶ月ぶりに低下するも引き続き 高水準を維持

経済研究部 研究員 押久保 直也

### 景気ウォッチャー指数

	景気ウォッチャー調査 現状判断DI					景気ウォッチャー調査 先行き判断DI				
	原数値	(季節調整値)	家計動向関連	企業動向関連	雇用関連	原数値	(季節調整値)	家計動向関連	企業動向関連	雇用関連
12年10月	39.0	42.5	38.4	38.3	44.3	41.7	45.1	41.9	40.5	43.2
11月	40.0	44.0	39.2	40.6	44.5	41.9	46.7	42.0	41.9	41.2
12月	45.8	47.7	45.5	45.6	48.5	51.0	54.3	50.2	52.8	52.8
13年1月	49.5	52.4	48.3	50.2	55.3	56.5	56.7	55.4	58.6	58.9
2月	53.2	53.3	51.7	55.0	58.6	57.7	56.7	57.0	59.1	59.3
3月	57.3	52.9	56.9	56.1	63.1	57.5	54.6	57.0	57.3	60.9
4月	56.5	52.5	55.5	56.7	62.3	57.8	53.3	56.8	58.8	61.8
5月	55.7	53.7	54.4	57.1	61.7	56.2	52.8	55.0	57.6	61.0
6月	53.0	51.7	52.2	52.8	58.0	53.6	51.5	52.6	54.8	57.5
7月	52.3	50.6	50.6	54.5	58.1	53.6	53.0	52.0	56.1	58.6
8月	51.2	50.9	49.3	53.3	58.7	51.2	52.5	49.6	53.4	57.0
9月	52.8	54.3	50.6	55.9	60.3	54.2	56.2	52.9	55.2	60.2
10月	51.8	55.0	49.2	54.8	61.6	54.5	57.8	53.7	54.6	59.4

(資料) 内閣府「景気ウォッチャー調査」

(注) 「家計動向関連」、「企業動向関連」、「雇用関連」は、各々家計動向関連業種（小売関連、飲食関連、サービス関連など）の景気判断、企業動向関連業種（製造業、非製造業など）の景気判断、雇用関連業種（人材派遣業、職業安定所など）の景気判断を示す。

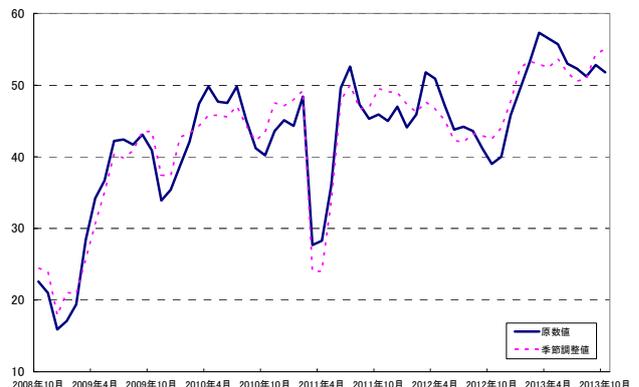
### 1. 景気現状判断DI動向：2ヶ月ぶりの低下

11月11日に内閣府から発表された2013年10月の景気ウォッチャー調査によると、景気現状判断DIは51.8となり、前月を1.0ポイント下回り2ヶ月ぶりに低下した。一方、7月調査から参考系列として公表されている現状判断DI（季節調整値）は55.0となり、前月を0.7ポイント上回り3ヶ月連続で上昇している。

項目別に見てみると、家計動向関連は、49.2ポイントと前月を1.4ポイント下回った。その主な要因としては、①台風による天候不順の影響により売上が伸び悩んだこと、②消費税増税前の駆け込み需要の一服感が住宅販売にみられたこと、の2点が挙げられる。

①に関する具体的なコメントとしては、「秋物衣料は、気温の高さや台風など気候の影響を大き

景気現状判断DIの動向

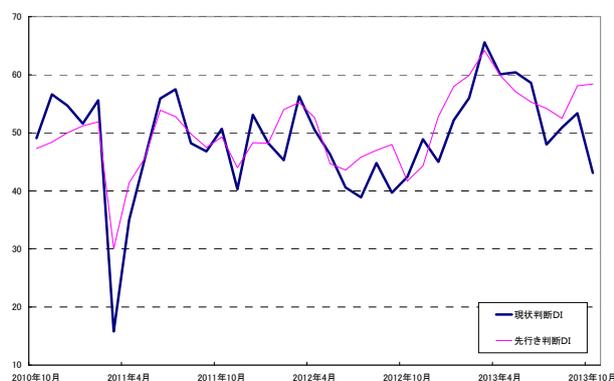


(資料) 内閣府「景気ウォッチャー調査」

く受けて全般に不調に推移している。高額品の需要も前年を上回ってはいるが、一時期のような伸びが感じられなくなっている。」(東海＝百貨店)や「今月は2回の台風があり、客が全く来ないという日が2日あって前年比88%とかなり厳しい状況である。それに加え、消費税増税など不安材料があるため、客の購買意識も薄れている。」(南関東＝衣料品専門店)などがあり、百貨店のDIは43.1ポイントと前月を10.3ポイント下回り、衣料品専門店のDIは42.9ポイントと前月を2.4ポイント下回った。②に関する具体的なコメントとしては、「10月の住宅展示場への来場数は、9月の駆け込み需要の反動で前年比4割減である。」(近畿＝その他住宅)などがあり、住宅関連のDIは54.0ポイントと前月を7.6ポイント下回った。

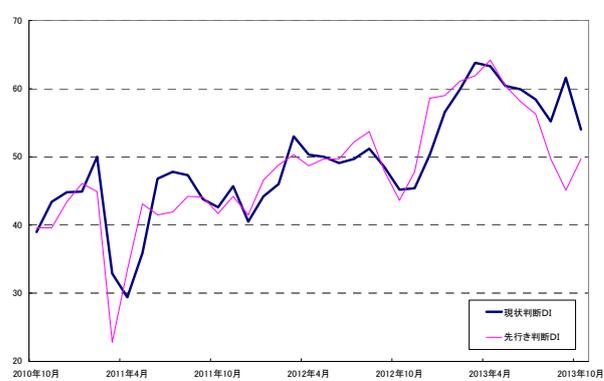
一方、「新商品の発売も影響してか販売量が上向きになってきており、同時に来客数も増え活気が出てきている。」(沖縄＝通信会社)など、新型iphone効果からスマホ販売が好調だったことで、通信会社のDIは52.7ポイントと前月を1.7ポイント上回った。

百貨店



(資料) 内閣府「景気ウォッチャー調査」

住宅関連



(資料) 内閣府「景気ウォッチャー調査」

企業動向関連は、54.8ポイントと前月を1.1ポイント下回った。これは「仕事の確保が難しい状況になっている。都心での常駐の仕事を確保しても、沖縄に持ち帰ってくるほどの受注案件が確保できなくなっている。」(沖縄＝通信業)など、非製造業で受注の増勢に鈍化がみられた影響と思われる。さらに、円安に伴う原材料価格上昇を主因とした企業収益圧迫懸念が引き続きみられた。

雇用関連は、61.6ポイントと前月を1.3ポイント上回った。これは「年末にかけて営業販売等での人材のニーズが増加傾向にある。」(四国＝職業安定所)や「人材紹介事業において、求人数が急増している。建設業以上にサービス業関連の求人が増えており、業績は横ばいのようなのだが、企業活動が活発化してきている。」(北海道＝人材派遣会社)など、非製造業を中心に求人が増加したことが影響しているとみられる。

また、地域別に見てみると、景気の現状判断DIは全国11地域中9地域で対前月比低下し、1地域で対前月比横ばい、1地域で対前月比上昇した。最も低下したのは沖縄(5.7ポイント低下)、唯一上昇したのは中国(0.3ポイント上昇)であった。沖縄は、台風による天候不順の影響からホテルの予約にキャンセルが相次いだことが影響していると思われる。

## 2. 景気の先行き判断 DI 動向： 2ヶ月連続の上昇

景気の先行き判断 DI は 54.5 と 2ヶ月連続で前月から上昇した。さらに、季節調整値の先行き判断 DI は 57.8 となり、前月を 1.6 ポイント上回り 2ヶ月連続で上昇した。

項目別に見てみると、家計動向関連は、53.7 と前月を 0.8 ポイント上回った。これは「消費税増税前の駆け込み特需と、現在の OS のサポート終了によるパソコン特需という 2 つの大きな需要に期待が持てる。」（南関東＝家電量販店）など、耐久財を中心に消費税増税前の駆け込み需要が強く期待されている影響とみられる。一方で、「消費税増税が決定してから、

来客数が以前にも増して悪くなってきている。今後少なくとも 4 月までは、増税した時の生活費の

負担増への不安から、余暇活動への出費はますます厳しさを増してくるものと思われる。」（南関東＝その他レジャー施設）など消費税増税による家計負担の増加不安やマインド低下懸念が引き続きみられた。

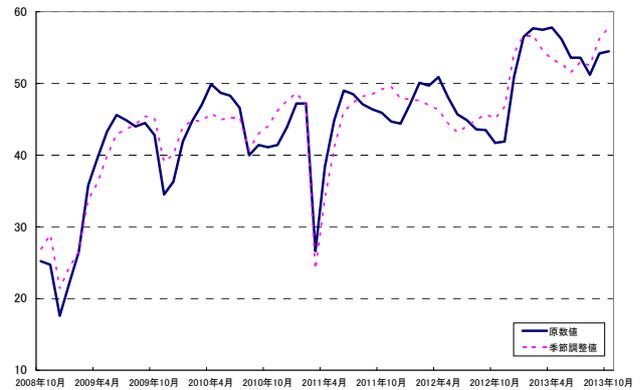
企業動向関連は、54.6 ポイントと前月を 0.6 ポイント下回った。これは「消費税増税の駆け込み需要による業務も終了するため、新規の受託の減少が予想される。」（東北＝司法書士）や「3 月以降数か月は、反動が来るため景気が冷え込むことをある程度覚悟している。」（南関東＝金属製品製造業）などから、消費税増税後に駆け込み需要の反動による売上の減少が見込まれる影響と考えられる。

雇用関連は、59.4 ポイントと前月を 0.8 ポイント下回った。これは消費税増税に伴う企業収益の減少から求人や雇用面にも悪影響が及ぶことが懸念されている影響と思われる。

また、地域別に見てみると、景気の先行き判断 DI は全国 11 地域中 7 地域で対前月比上昇し、4 地域で対前月比低下した。最も低下幅の大きかったのは東海（2.1 ポイント低下）、最も上昇幅が大きかったのは近畿（1.8 ポイント上昇）であった。

2013 年 10 月の調査では現状判断 DI は 2ヶ月ぶりに低下したものの、先行き判断 DI は 2ヶ月連続で上昇しており、共に DI は引き続き高水準で推移している。2020 年の東京オリンピック開催に伴う消費マインドの高まりや耐久財を中心に消費税増税前の駆け込み需要が強く期待されているなど、景況感の改善基調は維持されている。

景気の先行き判断 DI の動向



（資料）内閣府「景気ウォッチャー調査」